

平成 30 年 5 月 26 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370472

研究課題名(和文) ブムタン諸語の記述言語学的・歴史言語学的研究

研究課題名(英文) Descriptive and historical linguistic study of the Bumthang group of languages

研究代表者

西田 文信 (NISHIDA, Fuminobu)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：40364905

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、研究代表者がこれまで行ってきたマンデビ語と系統関係にあるブムタン諸語の系統関係の解明を目的としている。マンデビ語、オレカ語等の個別言語の正確な記述と、言語間の親疎関係を最新の系統分類の研究手法を用いて明らかにすることを目標とした。本研究期間では4回現地調査を遂行することができた。収集したブムタン諸語の語彙データの一次資料の入力をほぼ終了し、言語系統の分析の基礎的データが整備された。危機言語の観点から社会言語学的調査を、また空間認識に関する人類言語学的な初歩的調査も行うことが出来た。系統・分類に関する歴史言語学の方法論についても考察することができた。

研究成果の概要(英文)：This is a preliminary study on the phylogeny of the Bumthang group of languages spoken in Central part of the Kingdom of Bhutan. The Bumthang group of languages comprises Mangdebi-kha, Bhumtang, Kheng, Kurtup, Chali, Dzala, Dakpa (Tawang Monpa) and 'Olekha. Throughout the research period of this project, we could work on all the languages mentioned above, under the auspices of the Dzongkha Development Commission. Main research findings obtained are as follows: data on basic vocabulary, socio-linguistic background, anthropological linguistic materials, and historical linguistic data of each language.

研究分野：言語学

キーワード：ブムタン諸語 ブータン王国 記述言語学 歴史言語学 危機言語 チベット=ビルマ語派

1. 研究開始当初の背景

ブータン諸語研究の嚆矢となった George van Driem. 1991. Report on the first linguistic survey of Bhutan. Thimphu: Royal Government of Bhutan.の著者の手になる George van Driem. 2001. Languages of Himalayas. Leiden/ Boston/Köln: Brill. では、ブータン諸語の概説が施されているが、論述は文化的・地理的背景のみで、ブータン国内で確認できる 19 言語の音韻・形態・統語についての論考は付されていない。

1990年代より調査を継続している George van Driem 以外に、2000年以降、Tim Bode 及び Erik Andvik が東部のツァンラ語を、Gwendlyn Hyslop が北部のクルテツ語をそれぞれ調査し記述文法を作成済みである。しかし、マンデビ語をはじめとするブータン諸語の研究者は殆ど存在しない。ブータン諸語の記述・歴史言語学的研究は未だに手薄であり、チベット=ビルマ語派の諸語群と比較しても研究が進んでいるとは言いがたいのが現状である。これはひとえに、ブータン王国国内での言語調査許可取得の難しさに起因している。

ブータン王国中部で話されているブータン諸語はその多様性・言語的重要性にもかかわらず限られた言語データしか存在しなかった記述の遅れている言語群であった。従前の研究では語彙データや音韻データが断片的に発表されているが、歴史言語学的研究に耐える水準のものではなかった。比較・歴史言語学的研究を目的とした正確な語彙記述が必要とされた。

2. 研究の目的

本研究は、以下の3点を目的としたものである。

(1)ブータン王国ブータン県・トンサ県・シエムガン県における現地調査により収集した音韻・音声・形態統語論のデータを分析しデータベース化を行う。

(2)周辺諸言語との言語接触、借用等、言語動態論的視座に立脚した語彙分析を施す。

(3)歴史比較言語学の観点から、ブータン諸語の正確な下位分類を提示し、ブータン諸語における各語彙の祖形を再構し、チベット=ビルマ祖語及び周辺諸言語との親疎関係を解明する。

3. 研究の方法

(1)既に公刊されたブータン諸語の周辺諸言語に関する資料の収集及び整備を行う。年最低1回の現地調査により収集した音韻・音声・形態統語論のデータを分析しデータベース化を行う。

収集した IPA 精密表記による音声データを解析する。(音素抽出・音響音声学的解

析)

収集した形態統語論的データを解析しグロスを付す。(形態統語論的解析)

上記言語情報のデータベースを作成する。(データベース化)

分析に当たっては、R. M. W. Dixon. 2009. Basic Linguistic Theory: Methodology. Oxford: Oxford University Press. で提示された Basic Linguistic Theory により進めていく。音声データの分析には Paul Boersma 及び David Weenink (アムステルダム大学) 開発の音声分析ソフト Praat を用いる。

(2) 周辺諸言語との言語接触、借用等、言語動態論的視座に立脚した語彙分析を施す。

収集した語彙項目を意味分析する。(語彙項目の意味分析)

言語接触・借用・偶然の一致・言語の普遍性等の可能性を考慮に入れつつ、James A. Matisoff. 2003. Handbook of Proto-Tibeto-Burman. Berkeley/ Los Angeles/ London: University of California Press. に記載のチベット=ビルマ祖語の祖形や、ゾンカ語開発委員会 (Dzongkha Development Commission) 所蔵の周辺言語の語形との照合を行い、語彙の歴史を確認する。

(3) 歴史比較言語学の観点からチベット=ビルマ祖語及び周辺諸言語(ゾンカ語・ブータン語・ツァンラ語等)との親疎関係を解明する。

4. 研究成果

(1) 研究期間を通じて、4次にわたる現地調査により収集した音韻・音声・形態統語論のデータを分析した。音声面では、単独で読み上げた場合と複合語におけるピッチに関する資料を収集分析した。形態面では、基礎語彙に関する歴史言語学的研究を行った。また社会言語学及び言語人類学的側面に関しても、言語使用の実態(世代差・性差)及び空間認識に関する語彙データを解明することができた。

(2) マンデビ語、ブータン語、ケン語、クルトゥツ語、チャリ語、ザラ語、ダクパ語、オレカ語の基礎語彙における借用関係や言語接触、及び年代差に関する資料を収集し、語彙の来源に関しての分析を施した。今後より多くの語例について調査し同様の分析を施すことにより、更に詳細な史的变化を辿ることが可能となると考えられる。ブータン諸語の語彙のうち、チベット語と酷似する形式の来源(偶然の一致であるか、同源であるか、借用語であるか、言語接触の結果で

あるか)を判定することが次の重要な手続きとなるが、その基礎的データを検討することができた。

(3) 本邦初のオレカ語の概要を発表し、ブータン諸語研究者のみならず、現地の教育研究機関にもデータを提示することができた。

(4) プロカット語の音韻体系の初歩的調査をすることができた。当該言語では、子音音素として無声接近音が存在すること、母音音素すべてに長短の区別があること、また鼻母音が存在すること、一般的に文語チベット語の無声有気閉鎖音・無声摩擦音・無声ソノラントの子音は高調、有声子音は低調と共起するがソノラントの子音に関しては例外も存在すること、促声調にも高昇調が存在すること音韻論的には弁別的ではないこと、継続音[+cont]は低調とは共起しないこと等が判明した。

(5) シナ=チベット語族におけるブータン諸語の位置及び研究の回顧と展望を「ブータンの言語調査について」『秋田県高等学校教育研究会国語部会研究紀要』第50:6-11. 2014. として発表した。

(6) 本研究の概要を西田文信、「ブータンにおける少数言語研究の意義」『DRUK』国際協力機構ブータン事務所. 47:95-97. 2014 として発表した。

(7) 研究の媒介言語としてのゾンカ語に関して、西田文信、「ゾンカ語基礎 1500 語」大学書林. 2016. として発表し、研究成果の社会的還元を果たした。基礎語彙を提示するとともに、ゾンカ語文法の基礎をわかりやすく提示するよう努めた。基礎語彙はゾンカ文字・ゾンカ語の発音・英語・日本語を併記した。

(8) 社会貢献の一環として、「多田等観の辿った道」2016年6月18日、花巻市博物館講座第1回講演会として発表した。ブータン王国においての社会貢献として、言語保持に必要な教育環境の整備(文字作り、教材、教員養成、その他)に重要な貢献となるべく研究を進めてゆくべく、現地研究者間で連携を図ることができた。具体的には、ブータン渡航時にはゾンカ語開発委員会(Dzongkha Development Commission)、トンサ県庁、ワンディポジャン県庁、ブムタン県庁などブータン国内の関係部署への訪問を行い、将来的な共同研究の基盤を構築することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

西田文信、ブータンの言語調査について、秋田県高等学校教育研究会国語部会研究紀要、査読有、50号、2014、6-11

西田文信、ブータンにおける少数言語研究の意義、DRUK、査読有、47号、2014、95-97

西田文信、プロカット語の音韻体系：ブータン王国ブムタン県ドル村言語調査初歩報告、Artes Liberales. 査読無、94号、2014、1-17

NISHIDA, Fuminobu, On transitivity of Namuyi, Studies on European and American languages and cultures, 査読無、2、2015、135-149

NISHIDA, Fuminobu, Verbal morphology of Syangja Gurung, Artes Liberales, 査読無、95号、2015、29-54

西田文信、ポブジカ語の文の下位分類、Artes Liberales. 査読無、96号、2015、19-36

NISHIDA, Fuminobu, A lexicon of Standard Dzongkha, Artes Liberales. 査読無、97号、2016、43-78

NISHIDA, Fuminobu, Nominal Morphology of Syangja Gurung, Artes Liberales, 査読無、98号、2016、41-55

NISHIDA, Fuminobu, Nominal Relational Morphology of Syangja Gurung, Artes Liberales, 査読無、99号、2016、17-30

西田文信、オレカ語の言語学的特徴について、ブータン学研究、査読有、1号、2018、1-22

〔学会発表〕(計12件)

西田文信、マンデビ語・ブムタン語及びプロカット語における音韻体系の年代差、第4回日本ブータン研究会、2014年5月11日、早稲田大学(東京都新宿区)

西田文信、ブータン諸語の証拠性について、第17回ブータン勉強会、2014年6月14日、岩手大学(岩手県盛岡市)

西田文信、ブムタン県ドゥル村の遊牧民
言語特徴とその背景、日本南アジア
学会第27回全国大会、2014年9月28日、
大東文化大学（東京都板橋区）

西田文信、教育言語としてのゾンカ語、
第2回ブータン教育講座ブータンにおけ
る学校教育の現状を知る、2015年5月30
日、早稲田大学（東京都新宿区）

西田文信、Lhokpu 語初期調査報告、日本
南アジア学会第28回全国大会、2015年9
月27日、東京大学（東京都渋谷区）

西田文信、ブータン諸語のイネ・コメを
表す語彙、第46回ブータン勉強会、2015
年12月27日、ブータン王国ティンブー
市

西田文信、Lhokpu 語の音韻体系、第52
回ブータン勉強会、2016年5月28日、早
稲田大学（東京都新宿区）

西田文信、ブータンの少数民族の現状-
記録・継承・再活性化-、第2回ブータン
フォーラム、2017年5月20日、早稲
田大学（東京都新宿区）

西田文信、オレカ語の言語的特徴、第1
回ブータン学会大会、2017年5月21日、
早稲田大学（東京都新宿区）

西田文信、ブータン諸語の音声ドキュメ
ンテーション、日本音声学会第336回研
究例会、2017年12月2日、昭和女子
大学（東京都世田谷区）

西田文信、ブータン王国 East Bodish 諸
語の系統分類について、日本歴史言語学
会2017年大会、2017年12月9日、大

阪学院大学（大阪府吹田市）

西田文信、ブータン王国の諸言語につい
て～言語多様性の現状と課題～、第43回
雲南懇話会、2017年12月23日、JICA
研究所（東京都新宿区）

〔図書〕(計1件)
西田文信、大学書林、ゾンカ語基礎 1500
語、2016、122

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
西田 文信 (NISHIDA, Fuminobu)
東北大学・高度教養教育・学生支援機構・
准教授
研究者番号：40364905

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

(4) 研究協力者
()